

から 8m/sec 位までは、不安定が急激に減少し、それ以上の風速では一定な値になっている。

風速増加による気温上昇は、顕著な年変化を示しており、特に興味深いことである。春、夏、秋、冬季に対して、風速 10m/sec 増に対して、気温がそれぞれ、2.9, 1.3, 3.0, 5.0°C 増で、特に 5, 8月では、5.8°C 増、12月では 0.5°C 増と 10倍以上の差がみられる。

なお式で表わせば、それぞれ、

$$Y = 0.29X - 9.37, \quad Y = 0.13X - 1.49,$$

$$Y = 0.30X - 8.75, \quad Y = 0.50X - 21.29$$

となる。ただし、Xは風速(m/sec)、Yは気温(°C)である。

気温と気温傾度の関係では、年間を通して、ほぼ気温が 1°C 下の毎に気温傾度が 0.0057°C/m 上がることが判り、また変化傾向は、夏・冬季では同じく、気温 0°C に対して -0.036°C/m、春・秋季では 0°C/m の気温傾度を示している。

気温傾度の頻度分布は、夏季では約 7 割が不安定状態であるのに対して冬季では、約 88% が安定状態であり、季節により分布範囲に差がみられる。

以上のことが、この観測より判った主な結果である。

文 献

1) Liljequist, G.H., 1957: D. Surface inversions

and turbulent heat transefer, Norwegian-British-Swedish Antarctic Expedition, 1949-52, Scientific Results, vol. II, Part 1D, 235-298.

2) 真木太一, 1972: 南極の海氷上における接地気層の観測, 農業気象, **27**, 137-143.

3) 松田達郎, 1964: 南極東オングル島におけるセン類群落の微気象について, 南極資料, **21**, 12-24.

4) 守田康太郎, 1968: 昭和基地で観測される Katabatic 風について (I), 南極資料, **31**, 21-32.

5) 村越 望, 1958: 第 1 次越冬隊気象部門報告, 南極資料, **4**, 1-22.

6) Murakoshi, N. and Yata, A., 1962: Meteorological observation at Syowa Base during the 4th wintering, 南極資料, **15**, 1-11.

7) Nakashima, H., 1961: Statistical investigation of meteorological data at Syowa Base, 南極資料, **11**, 68-74.

8) 清野善兵衛・鈴木信雄, 1964: 昭和基地の高層気象と季節循環型の記録, 南極資料, **23**, 12-31.

9) The Japan Meteorological Agency, 1964: Surface meteorological data at the Syowa Base, Antarctic Meteorological data, **2**, 1-14.

10) 山崎道夫・井部良一・福谷 博, 1969: 昭和基地の天気と気象観測, 天気, **16**, 339-348.

気象学会および関連学会行事予定表

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
夏期講演会 (プラネタリー境界層のシンポジウム)	昭和47年 8月25日	日本気象学会	気象庁第 1 会議室
秋 季 大 会	〃 10月24日 ~27日	日本気象学会	新潟市
高層気象月例会	〃 11月 2 日	日本気象学会	気象庁内
第19回風に関するシンポジウム	〃 11月22日	日本気象学会, 他	気象庁講堂
構造物の耐風性に関する第 2 回シンポジウム	〃 12月 4 日 ~ 5 日		気象庁講堂